

【樹木・草花の部屋】

クズ（マメ科マメ亜科クズ属 Pueraria lobata）

和名（漢字）；葛 別名；裏見草（うらみぐさ）カンネ ウマノボタモチ 英名；kudzu
マメ目 つる性多年草 草本植物

分布； 日本全国

花言葉；活力、芯の強さ、治癒 花の色；紅紫

名の由来；奈良県「国晒（くす・吉野地方）」の国がくず粉の産地だったから



← 写真－1 クズの花

撮影日：2012年9月14日

撮影場所：奈良県香芝市

T邸にて

撮影者：Tさん



← 写真－2

クズの花

馬見花だより

9月14日号より

（馬見丘陵公園提供）

写真－3 クズの実 ⇒

撮影日：2012年10月7日

撮影場所：京都府木津川市

当尾にて

撮影者：Tさん

緑友会ワンデイハイキング

当尾 岩船寺から浄瑠璃寺への

ハイキングコースにて

花も終わり実がなっていました。



【樹木・草花の部屋】



← 写真-4 クズの実

撮影日：2012年10月7日

撮影場所：京都府木津川市

当尾にて

撮影者：Tさん

アップの写真です。

実もたくさんなり、地下で栄養をたっぷりため込んで、どんどん増えていきます。

＜ちょっと一言＞

クズの茎は生育に従って太く木質化し、地面にはい他の植物にからみついて繁茂する。

葉は大きく厚く3出葉で頂小葉はひし形の広楕円形、茎葉には粗い毛がある。

＜利害＞

被害はよく繁茂するつる草として、雑草としてはこれほど厄介なものはない。博覧会で日本から運ばれたクズは、アメリカ南部では有害植物及び侵略的外来種に指定されている。が、駆除ははかどっていない。

利用は、かつて、つるを作業用にもちいた。乾燥して固くなる前に編むことで、かごなどの生活用品つるを煮て発酵させて葛布を作った（平安時代ごろ）。

飼料として利用された。今はあまり利用されていない。ウマノオコワ、ウマノボタモチといった別名（地方名）がある。また、甘みがある根をよく子どもたちが噛んでいたことから「噛む根」の意からカンネとも呼ばれた。

食用としてはクズの根からとれる葛粉は良質のデンプンであり、効率よく栄養を取るには最適の食材であった。飛鳥時代の住居跡からも葛餅のような食品が出土している。混じりけのないものを本葛と呼ぶが、生産量は少なく、一般に売られているものは馬鈴薯デンプンが混ざっているものが多い。国産本葛の大生産地は鹿児島である。

薬効としては、秋に根を採取し、水洗いして外皮を除き、日干ししたものを葛根と呼ぶ。漢方では発汗解熱などの目的で、葛根湯の主剤に用いられてきた。ちなみに、心臓疾患のある人はさけたほうがよい。（家庭で使える薬用植物大事典 著田中孝治より）

クズは秋の七草のひとつです。

ハギ、オバナ（ススキ）、キキョウ、ナデシコ、オミナエシ、フジバカマ、クズ
覚え方は「ハスキーなお袋」だそうです。